
巻 頭 言

2006年度のあゆみ

社会学部 教授

東 村 高 良

2006年度の、ITセンターで特記すべき事項をあげますと、①学内ネットワークインフラ関係では、教育・研究用ネットワークのほぼ総てがギガビット対応になりました。②ITセンターのメインシステムでは、3年毎の全面的な更新を行いました。性能的には中期的な需要に対応すべくシステムを構築し、また、IT社会におけるセキュリティー確保の観点から、普及が進んでいるPC端末に一切の情報を残さないシンクライアント方式を採用しました。③高度計算サーバーは従来からの並列計算方式も引き続き利用できるようになっております。④外部からのウイルス感染を防ぐためのセキュリティー関係では、ファイヤーウォールを導入し、万全を期しております。他方、⑤学内で発生したウイルスの全学への蔓延を防ぐために、キャンパス内を学舎別に4つのゾーンに分割してネットワークを再構築しました。

次に、教育用コンテンツの作成と蓄積および活用は、これからの大学の大変重要な役割の一つとなると思われます。このため、(社団法人)私立大学情報教育協会および(独立行政法人)NIMEなど複数の機関が教育用コンテンツの開発や相互利用活動を行っています。本学も、これらの機関にいち早く参加して、先生方からのコンテンツの登録と活用を始めております。

さらに、システムの運用面では、過去最多の約10万5千人を記録した受験者数にも対応する「入試合否発表のWeb化」、全在学生約3万人を対象とした「成績発表のWeb化」と、全学の全科目を対象とした「シラバスのWeb化」、および「履修届けのWeb化」、そして「Webを用いた総合的な授業支援システム」の運用など、年々増加一方である利用環境に適応できるようシステムを強化してまいりました。今後も全システムの円滑な運用に全力を尽くして行きたいと思っております。

さて、次の2007年度には、政策創造学部が新設され、工学部が理工系3学部へ再編されます。また、世間で言われている、いくつかの2007年問題がのしかかって来ます。

ITセンターでは、次年度も、皆様方のご協力を得て、2007年問題等への対応と、さらなるサービスの向上に向けて努めて参りたいと思っております。

(ITセンター 所長)